

筑波大学附属病院のチーム医療教育

—患者中心の医療を実践する人材育成の体系化—

報告書(ダイジェスト版)

筑波大学 チーム医療教育



ケイちゃん

マスター・ブライト

レンくん

イメージキャラクター



筑波大学
University of Tsukuba

🍵 はじめに 🍵

我が国の医療現場は、医師や看護師などの医療人材の不足や、医療の高度化、急速に進む高齢化など、多くの困難な課題にさらされています。

筑波大学附属病院では、こうした状況下でも、

患者さんが安心して医療を受けられるよう、多職種が協働する“チーム医療”を推進しております。

本院の取組みは高い評価を受け、平成 23 年度の文部科学省大学改革推進事業「チーム医療推進のための大病院職員の人材育成システムの確立」に採択されました。

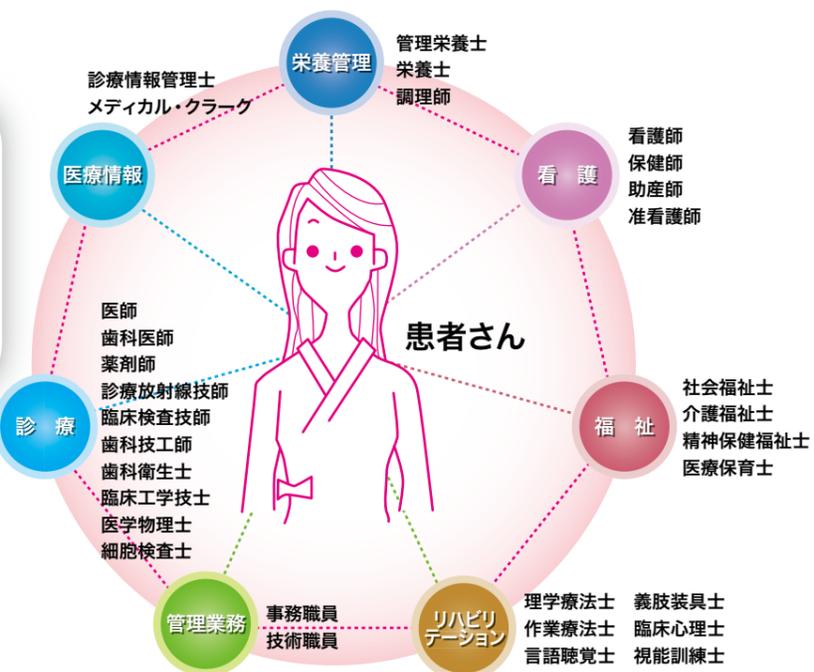
本冊子では、チーム医療を担うスタッフの教育に取り組んだ、筑波大学の「患者中心の医療を実践する人材育成の体系化」事業についてご報告いたします。

🍵 目次 🍵

はじめに	2
ご挨拶	4
筑波大学附属病院長 五十嵐徹也	
筑波大学附属病院総合臨床教育センター部長 前野哲博	
「患者中心の医療を実践する人材育成の体系化」の概要	6
新たに計画した教育プログラム	
教育プログラム全体構成図と教育プログラム一覧	8
病院スタッフの参加状況と参加者からの声	9
教育プログラム受講の例	10
新しい医療チームと活動の例	
医療チーム一覧	12
活動の例：「管理栄養士が中心となった患者の QOL 向上チーム」	13
地域の医療関係者や大学関係者からの声	14

今、「チーム医療」の実践が求められています。

「チーム医療」とは、一人ひとりの患者さんに対し、各分野の専門家が連携しながら治療を行うことなんだ。



🍵ご挨拶🍵

筑波大学附属病院は、「良質な医療を提供するとともに、優れた人材を育成し、医療の発展に貢献します。」を理念に掲げ、この実現に邁進しております。2012年12月には、最新の設備を備えた「けやき棟」も開院し、良質な医療を提供するための施設を地域の皆さんにもご利用いただけることとなりました。

最新の医療設備も、高い専門能力を備えたスタッフによるチーム医療の実践がなければ、その性能を十分に発揮することはできませんが、この実現は必ずしも容易なことではありません。数多くの多彩なスタッフが、それぞれの力を存分に発揮できるチーム医療体制を確立していくために、まずチーム医療を担えるスタッフの養成が礎となります。その「教育」の部分を担当してきたのが本事業です。幸いなことに、本事業はこの3年間で、熱意あるスタッフと地域医療に携わるみなさんの生涯に渡る学習機会の拡大につながるものに育ってまいりました。

人々の健康と幸福に貢献していくことは、医療に携わる者の究極的な願いですが、幸せをもたらすための仕掛けには、持続発展的な仕組みが必須です。近年の医療現場は、社会的なニーズの激しい変化、医療技術の急速な進歩に日夜さらされています。筑波大学には、これまで培った豊富な医療・教育資源があり、これらを活用することで、これからの医療スタッフの生涯学習のモデルとなるような、チーム医療教育プログラムの開発が可能であると確信しています。

次の時代を担う多くの医療人を育成する本取組を進めることには、大きな意義を感じております。患者中心の医療を実践できる生き生きとした医療チームを実現し、次世代の医療者、市民のための大いなるプレゼントとなるよう、これからもチーム医療人材の養成を強力にバックアップしてまいります。



筑波大学附属病院長
五十嵐 徹也

近年、医師不足や医療の高度化・複雑化に伴う業務の増大により医療現場は疲弊しており、これまでのやり方では、日本の医療は早晚立ち行かなくなると考えられます。このことは、高齢化がますます進み、国民が質の高い医療を切実に求める我が国の将来にとって、重大な問題です。日本の医療現場は、スタッフの熱意と工夫により、極めて効果的にその役割を果たしてきましたが、その反面、現状のシステムのままでは、さらなる医療の効率化は限界にきているのも事実です。

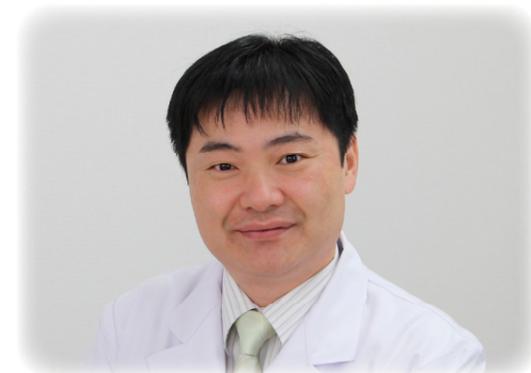


この難局を打破するために、本院では、文部科学省の支援を得た本事業の推進により、必要に応じて他業種のビジネススタイルも取り入れながら、患者中心の医療を実践するスタッフが笑顔で働ける新しい医療チームの構築を目指してまいりました。本事業では、25の新しいチームと36の教育プログラムを実践し、研修会には年間延べ2,289名（2012年度）が参加するまでになりました。それにより、職種の壁を越えて連携する気運が生まれ、少しずつではありますが確実に新たな連携の輪が広がっています。

また、ノンテクニカルスキルに焦点を当て、組織人として業務を改善しリーダーシップを発揮できる能力を修得するための教育パッケージである TEAMS (Training for Effective & efficient Action in Medical Service) を開発し、その普及を図るなど、高い専門能力を養成するだけでなく、病院職員が緊密な連携の下で「互いに教え合う」文化を醸成し、課題解決を目指した点でも、新しい人材養成の方向性を医療現場に提起してまいりました。

今後は、本事業で蓄積されたノウハウが、院内の医療チームだけでなく、地域医療や地域社会でも活用されるものとしていくことで、地域医療再生にも貢献することが期待されます。この大きな課題にも、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

本事業にご協力いただきました関係者の皆さまには、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。チーム医療に貢献する本取組みのさらなる発展のためにも、これからも変わらぬご支援ご協力を賜れば幸いです。



事業推進責任者
筑波大学附属病院
総合臨床教育センター部長
前野 哲博

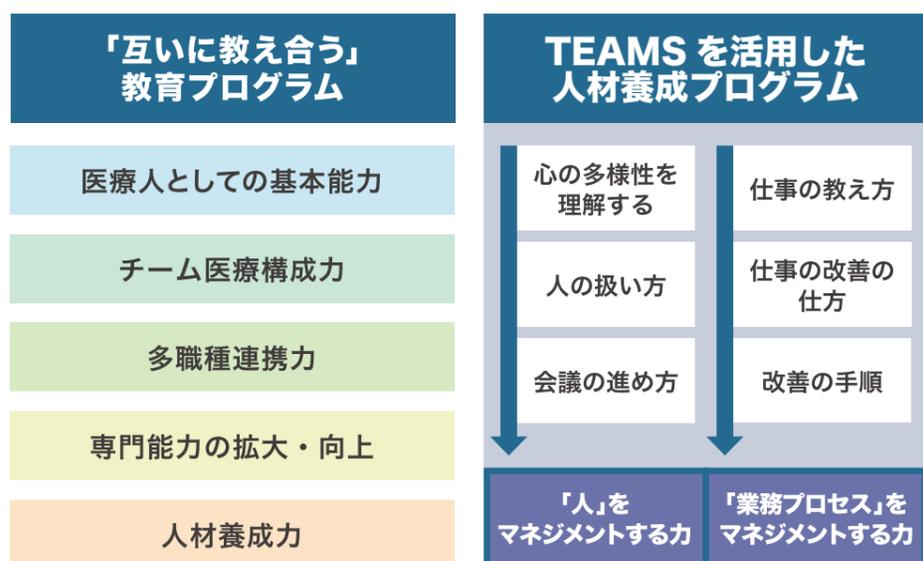
「患者中心の医療を実践する人材養成の体系化」の概要

既存の役割分担を見直すとともに、
多様化する医療ニーズにいち早く対応できる医療チームを構築し、
それを実践できる人材の養成を目標とします。



患者中心の医療を実践する人材養成の体系化

人材養成の体系化・標準化



プログラム成果

- 病院職員のモチベーションの向上、チーム医療の推進を通して組織文化を改善し、強い求心力を持つ病院になる
- 成果分析によるさらなる発展
- 教育パッケージ TEAMS の開発で人材養成を標準化
- 体系的な教育とマネジメントで安全・安心医療環境の提供
- 地域における病院職員の輩出促進・多くの病院で活用できるシステム

**患者中心の明日の医療に！
誇りが持てるチーム医療の構築！**

主な課題点

- 人材養成のプロセスが標準化されていない・研修にバラツキがある
- 職種・部門を超えたコーディネート機能が弱い
- 他の職種を学びたくても適切な教育資源が乏しい
- チーム内マネジメントがうまくいかない、「分業」から脱せない
- 最高の医療を提供したいがマンパワーに限界がある

総合臨床教育センター

チーム医療教育推進室

新たなチーム医療・役割分担の創出

医療の変化に応じてチーム医療・役割分担を柔軟に構築

医療チーム・分担者の力量育成

「人材養成エキスパート」を養成し、
チームリーダー・メンバーの育成マネジメントスタッフの育成を担当する



▶ 「互いに教え合う文化」を醸成する

高い専門能力を持つ病院職員が、職種の壁を超えて教育に当たる。

▶ 人材養成の体系化・標準化を図る

優れた人材が職種を超えて確実に育つ環境を実現する。



事業イメージキャラクターのご紹介



ケイちゃん マスター・ブライト レンくん

つくば市の鳥でもあるフクロウをモデルにしたイメージキャラクターです。知恵と技術を象徴しています。

マスター・ブライトの指導のもと、レンくん・ケイちゃんが、チーム医療チーム医療に関心のある筑波大学附属病院や地域の医療福祉に関わる皆さんの学習を支援します。



🍷 新たに計画した教育プログラム 🍷

筑波大学附属病院では、本事業「患者中心の医療を実践する人材養成の体系化」を通して、これからの医療チームを担える人材を養成するための様々な教育プログラムを実施しています。



🍷 教育プログラム全体構成図

ユニット1 医療人としての基本能力

全人的医療を実践する医療人として、必要な基礎能力を身につける。

ユニット2 チーム医療構成員力

必要に応じて柔軟に医療チームを組織し、協調できる。

ユニット3 多職種連携力

他職種の視点とスキルを学び、相互理解と連携を深める。

ユニット4 専門能力の拡大・向上

各職種のスキルを拡大・向上させ、新たな可能性を広げる。

ユニット5 人材養成力

人材養成のためのマネジメントおよび効果的な指導ができる。



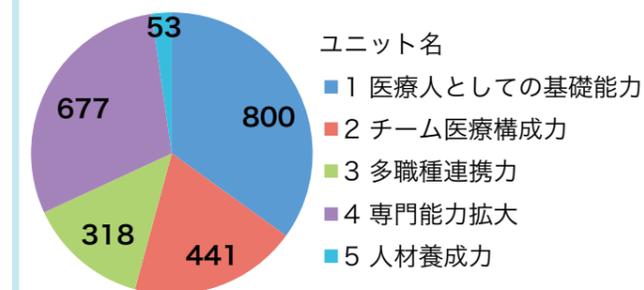
🍷 教育プログラム一覧

ユニット1 医療人としての基本能力	1	診療における円滑・親切・安心プログラム	ユニット4 専門能力の拡大・向上	20	メディカルクラーク（医師事務作業補助者）養成プログラム
	2	病歴聴取・トリアージ能力教育プログラム		21	第一種衛生管理者の免許取得教育プログラム
	3	フィジカルアセスメント能力教育プログラム		22	薬剤師レジデントプログラム
	4	病院経営・医療経済制度教育プログラム		23	学会認定・専門薬剤師養成プログラム
	5	感染予防教育のための基礎研修		24	リハビリテーションスタッフ向け超急性期における全身評価研修
ユニット2 チーム医療構成員力	6	チーム医療のためのリーダーシップ研修		25	臨床検査技師専門教育プログラム
	7	チーム医療のためのチームビルディング研修		26	診療放射線技師の読影力向上プログラム
	8	チームマネジメント教育プログラム・TQM教育プログラム		27	専門リハビリテーションセラピスト（PT・OT・ST）養成プログラム
	9	チーム医療のためのコミュニケーション研修		28	総合リハビリテーションセラピスト（仮称）（PT・OT・ST）養成プログラム
	10	多職種連携新人研修		29	退院支援に関する専門ソーシャルワーク教育プログラム
ユニット3 多職種連携力	11	患者の意向を尊重した医療を行うためのコミュニケーション教育プログラム（アドバンスケアプランニング）		30	日本初の医学物理士レジデント教育プログラム
	12	せん妄の勉強会		31	人材養成プログラム：会議の進め方
	13	外来化学療法に携わる医療従事者の抗がん剤に関する共通教育プログラム		32	人材養成プログラム：改善の手順
	14	摂食嚥下研修		33	人材養成プログラム：MBTI
	15	急性期リハビリテーション、離床に関する多職種合同研修会		34	人材養成プログラム：仕事の教え方
	16	非がんに対する緩和ケア勉強会		35	人材養成プログラム：仕事の改善の仕方
	17	血管造影シミュレーターを用いたメディカルスタッフの教育		36	人材養成プログラム：人の扱い方
	18	DPC教育プログラム、DPC 専門プログラム			
	19	造血幹細胞移植勉強会			

🍷 病院スタッフの参加状況

本事業の教育プログラムには、年間 2,289 名（2012 年度）の参加者があり、平均すると附属病院の全職員が 1 年に 1.5 回はチーム医療の教育プログラムに参加した計算になります。医療現場に必要なテクニカルスキルの修得だけでなく、「ユニット 2 チーム医療構成員力」や「ユニット 5 人材養成力」のプログラムにも多くの病院スタッフが参加しています。

教育プログラムへの参加状況 (2012年度延べ参加者数)



🍷 参加者からの声

【ユニット2 多職種連携新人研修】

短い時間でしたが、とても考えさせられる内容でした。コミュニケーション、信頼関係、普段からの危機管理、冷静さなど、医療者として働いていく上で、大切なことに改めて気付かされました。また、他職種と関わる機会をいただいて“つながり”を意識していかなければいけないと感じました。（看護師）



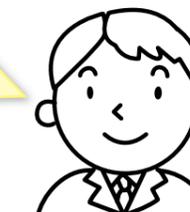
【ユニット3 血管造影シミュレーターを用いたメディカルスタッフの教育】

是非是非次回も開催して下さい。ご準備等大変だと思いましたが、本当に素晴らしいセミナーを企画していただきましてありがとうございました。（臨床工学技士）



【ユニット4 退院支援に関する専門ソーシャルワーク教育プログラム】

入院時から退院後のことをみすえて関わるという言葉聞いて、そのようにしていけたらいいなと思った。退院後、問題となる事の例がわかり、注意してみていきたいと思う。



【ユニット5 人材養成プログラム：仕事の教え方】

初めて参加しました。このような研修があったとは知らなかったのですが、皆にももっと広めていくと良いと思います。（臨床検査技士）



教育プログラム受講の例

ケース1

薬剤師 F子さんの場合



- ◆せん妄の勉強会
- ◆チーム医療のためのチームビルディング研修
- ◆非がんに対する緩和ケア研修会

…etc

ケース2

事務系職員 C男さんの場合



- ◆DPC 教育プログラム、DPC 専門プログラム
- ◆人材養成プログラム：仕事の教え方

…etc

○全職種が参加できるプログラム：人を育成する方法や、チーム力を高めるためのスキルを学べる教育プログラムも多数計画されています！

- ◆ 診療における円滑・親切・安心プログラム
- ◆ フィジカルアセスメント能力教育プログラム
- ◆ チーム医療のためのリーダーシップ研修
- ◆ **多職種連携新人研修**
- ◆ 人材養成プログラム：会議の進め方
- ◆ **人材養成プログラム：仕事の教え方**

私も「多職種連携
新人研修」に
参加したのよ♡

…etc.



多職種連携新人研修

- 筑波大学附属病院では、毎年 200 名前後の新人職員を迎えています。その中の約 4 割は、異なる職種間で話し合った経験がないそうです。そこで、平成 24 年度から、参加型新人職員合同研修会『多職種コミュニケーション』が開始されました。

研修を優しく見守る
先輩教職員の皆さん



- チーム医療教育の導入として、職種をこえたコミュニケーション、人間関係の構築を目指しています。
- 中心となるのは、多職種混成の 6～8 名が 1 つのグループになり、映画のワンシーンを観た後に行うグループワークです（左写真）。
- 成果報告では、多職種でのチームワークや信頼関係は、どうすれば構築できるか、そしてそれをどうやって患者さんのために活かすか、話し合えたグループが多く、他の職種にも力強い仲間ができたようです。

初対面でも
チームワーク、バッチリ★

《問題》トヨタ車はなぜ世界の人々に選ばれるのでしょうか？

— 秘密は、高いスキルを持つ**従業員の育成方式「KAIZEN」**にあります。—

トヨタ自動車は、実は 60 年ほど前に倒産しかけていた、と言ったら意外に思われる方が多いかも知れません。それほどトヨタ自動車の成功は、今や当たり前のこととなっています。では、どうやってトヨタは会社を立て直し、半世紀あまりで乗用車シェア世界一に登りつめたのでしょうか？ その秘密は、従業員の育成方式「KAIZEN」にあります。

トヨタは、製造技術の革新だけでなく、人を育成する方法の改善「KAIZEN」によって、**不断の人材育成に取り組むこと**で、高品質な製品を効率的に安全に生産し、**世界一**であり続けているのです。

医療現場も産業界と同じです。職員は、**高い専門的なスキル**（職種ごとにそれぞれ専門的な知識や技能）だけでなく、**組織人として主体的にチームに関わるスキル**：人を育成するためのスキル（仕事の教え方、コミュニケーションのとり方）や、チームをまとめ上げる力（リーダーシップ、マネジメント力）などが備わって、初めて**患者さんのニーズに合った質の高い医療**を提供し続けることができます。

筑波大学附属病院では職員一人一人がこうしたスキルを身につけ、今以上に**自信をもって安全安心な医療**を提供できるよう、「患者中心の医療を実践する人材養成」に取り組んでいます。

附属病院が人材養成に取り組んでいるから、
病院教職員なら、どのプログラムでも**‘無料’**で受講できるんだって！
地域の保健医療従業者の皆さんにも
参加してもらえる研修会もあるんだよ♪



人材養成プログラム

- 世界的にも注目を集めているトヨタの人材育成「KAIZEN」の手法を用います。
- **社会人として全職員に必須の「業務の改善の仕方」や「仕事の教え方」**などについて、少人数体験型研修会で、コンパクトな 2 日間で学べるプログラムが準備されています。
- これまでの医療現場の教育プログラムには、あまり入ってこなかった、**人を育成するためのスキル**を基本から学べる研修会です。
 - ・仕事を正確に、迅速に、安全に教えるための指導方法の習得
 - ・職場の人間関係をよくするための問題処理の仕方の習得
- 参加者アンケートでは、研修内容が**医療業務に役立つ**といった意見の他に、**多職種が参加していることで部署同士の理解が深まる**、という効果が示されています。
 - ・仕事の仕方・手順・施設などの改善ができる手法の習得
 - ・改善するスキル

こういう研修、
今までなかったね！



🍷 新しい医療チームと活動の例 🍷

こうした教育プログラムを受けたスタッフも加わり、新しい医療チームが活動を開始しています。ここでは、本事業で計画された医療チームをご紹介します。

🍷 医療チーム一覧

1	病院内横断的問題解決チーム	14	苦情・クレーム・暴力対応支援チーム
2	地域医療連携推進による高度医療を必要とする在宅患者等支援チーム	15	人材養成エキスパートチーム
3	癌患者服薬サポートチーム	16	放射線治療プロセス改善チーム
4	口腔ケアチーム	17	血管内治療チーム
5	せん妄対策チーム	18	造血幹細胞移植チーム
6	外来化学療法チーム	19	管理栄養士が中心となった患者のQOL向上チーム
7	病院職員に対する院内感染対策教育チーム	20	DPC検証チーム
8	地域関係機関と連携した小児リハビリテーションチーム	21	医療経済・制度サポートチーム
9	術前から始める周術期リハビリテーションチーム	22	薬剤師病棟常駐（小児病棟、手術室）
10	包括的リハビリテーションコンサルテーションチーム	23	ソーシャルワーカー（社会福祉士）病棟担当制による患者・家族への支援（脳神経外科・神経内科病棟）
11	摂食・嚥下サポートチーム	24	臨床検査技師を中心とした、患者満足度の高い臨床検査推進チーム
12	こどもの食育支援チーム	25	放射線画像の質の向上推進チーム
13	非がんに対する緩和ケアチーム		

🍷 活動の例：「管理栄養士が中心となった患者のQOL向上チーム」の活動

「管理栄養士が中心となった患者のQOL向上チーム」では、様々な疾患の患者さん QOL (Quality of Life) 向上を目指した活動を行っています。ここでは、「チーム IBD」との共催で実施している『IBD 患者さん向けの料理教室』についてご紹介します。



IBD患者さん向けの料理教室

参加者に自分の体調にあった食事の選び方とその調理方法について学んでもらうことで、栄養状態の改善や適切な栄養状態の維持を図ります。

料理教室が対象とした IBD (Inflammatory Bowel Disease= 炎症性腸疾患) は、潰瘍性大腸炎とクローン病という、主に消化管に炎症を起こす原因不明の疾患の総称です。若い方がなりやすく、病気が良くなったり悪くなったりを繰り返すため、長期間にわたる治療が必要と言われています。IBD は薬だけでなく、食事療法も重要な治療法で、寛解期と呼ばれる症状のない状態を長く維持することが目的となります。

多職種スタッフで患者さんご家族を支援！

IBD 患者さんのサポートを目的に、平成 22 年から活動している「チーム IBD」は、患者さんやご家族にさまざまな情報や知識を提供しています。勉強会やお料理教室は、参加者から好評を得ている取組みの 1 つです。料理教室は、本事業の「管理栄養士が中心となった患者の QOL 向上チーム」と「チーム IBD」が共同で実施していることから、医師、看護師、管理栄養士、調理師、社会福祉士と多職種に渡り、多面的なサポートを行えるメンバー構成となっているのが特徴の 1 つです。

地域の皆さんの健康づくりにも貢献しています。

附属病院の PFI 協力企業でもある一般財団法人桐仁会が主催する県民のための健康管理講座では、「管理栄養士が中心となった患者の QOL 向上チーム」の担当者・岩部博子栄養管理室長が講演。本院の患者さんだけでなく、地域の皆さんにも、「食」を通じた健康づくりを提案しています。



選んだ料理を囲んで情報交換。試食しながらなので、具体的なことを相談しやすい雰囲気です。

和気藹々の調理実習

今回の献立は、豆腐ハンバーグ、棒々鶏風、鮭のムニエル、マグロカツ、ミモザサラダ、ゆで野菜カレー風味、エビ団子のスープ、ヨーグルトムースです。栄養価と食味、彩りにも配慮したものになっています。

料理選択の演習では、管理栄養士が各参加者にきめ細かくアドバイス。心強いです！

料理教室のプログラム (例)

- ♪ミニレクチャー
- ♪調理のデモンストレーションと実習
- ♪栄養士による料理選択のアドバイス
- ♪料理選びと試食・情報交換



揚げ物もオープンを使えばぐっと脂肪を押えられます。レポートリーが広がりますね。



🍷 地域の医療関係者や大学関係者からの声 🍷

本事業のワークショップに参加された、地域の医療関係者や他大学教職員から寄せられたご意見をご紹介します。参加者からの声を通して、本院の取組みが他の地域医療の現場でも活かしていただけるものとなっていることや、他の機関・組織と比べると本院にはチーム医療を推進しやすい組織風土があることなどがわかりました。ご意見をいただいたことが、外からでなければ見えない本院の特徴を知る貴重な機会となりました。ご参加いただきました皆さまには改めて御礼申し上げます。

📌 寄せられたご意見

医療関係者

貴院の職位や職種の壁のない環境が、まさしくチーム医療の土台であり、連携を育み、発展させていくものであると感銘しました。当院でも新入職時から多職種連携について考え、行動できる職員を育成していきたいと思えます。

医療関係者

チーム医療推進のためには、貴院の職位や職種の壁のない環境・チーム医療の土台が必要であり、チーム医療を発展させていくための大切な基盤であると思いました。また、医療の場に限らずどこの職場でも、チームとして協働できてこそ質の良い仕事がうまれると思いました。貴院の TWI をはじめとする教育プログラムを参考に、当院で取り入れられるものから始め、職場環境を改善していきたいと思えます。

大学関係者

貴学が、他と比べりべらるな建学の精神を持ち、それをベースとした活動をされていることを、羨ましく思い、また、どうしたらそれに近づけるようになるか、関心を持ちました。

大学関係者

G P (Good Practice・文部科学省 国公立大学を通じた大学教育改革の支援) 事業は、補助金申請前からある程度しっかりした実施計画があるか、試験的に実施していたものを補助金獲得により拡大するといった形を基本に、最終的にどういったプログラムとして継続実施するかのイメージが明確でないと、往々にしてうまくいかない場合が多いものです。その点、貴学の取組みは、補助終了後も無理なく継続できそうで、当初からの計画が堅実であったことの証と思われました。



筑波大学附属病院では、これからもチーム医療を担う人材の養成を続けてまいります。ご関心のある方は、以下の事業HPにアクセスしてみてください♪
http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/team_iryoy/index.html



発行／筑波大学附属病院
所在地／〒305-8576 茨城県つくば市天久保2-1-1 Tel: 029 - 853 - 3900 (代表)
編集／筑波大学附属病院 総合臨床教育センター チーム医療教育推進室
問合せ先／Tel: 029 - 853 - 3339 Fax : 029 - 853 - 3687
E-mail: team.iryoy@un.tsukuba.ac.jp

